

申込事業計画説明及び質疑応答まとめ

(1) あらい七夕プロジェクト 2023

【プレゼン概要】

荒井駅周辺に、地域の子どもたちや地域に関わりのある人たちが作成した七夕飾りを展示する。展示期間中に夏まつりを開催し、地域内外の人たちに七夕飾りを見てもらいながら、同時にまち歩きをしてもらう。また、七夕飾りづくりの参加・協力者と一緒に「あらい七夕のうた（仮称）」を制作する。

【質疑概要】

- Q 「あらい七夕のうた」はどのように活用する予定か。YouTube で公開するだけでは勿体無いと思う。地域の繋がりを作るために、他に活用方法を考えているのであれば教えていただきたい。
- A 今回つくるのが「七夕のうた」なので、毎年夏になると、この歌が流れてくるような雰囲気や定着させていきたいと思っている。そのためにも、社会学級のお母さん方や、子供達にいつでも使ってもらえるような環境を準備したいと考えている。
- Q 「あらい七夕のうた」を SNS を使って広めていきたいと考えているのであれば、振り付けを作るとより広まりの材料となると思うが、そういった考えはあるか。
- A 振り付けについては、昨年度のまち歩きイベントで「あらいのうた」を作った際に、宮城県で活躍しているファミリーユージュバーさんをお願いして、お子さんに振り付けをしてもらった経緯がある。今回も是非協力したいとお声がけいただいているので、お願いしたいと思っている。
- Q まつりのテントの設置等を含め、470,000 円の予算で問題ないのか。
- A テントの設置等について、必要な人材は地域の町内会をお願いなどをして確保しているので、問題ない。
- Q ほとんどの支出をまち活動成でねん出する予定であるようだが、まち活動成がなくなったあとの継続性についてはどのようにお考えか。
- A 主にかかっている費用が材料費になっている。前回足りなかった物品や楽曲制作に必要な費用を今回入れさせていただいた。前回は今回も材料費は 20 万円ほどかかっている。昨年、地域の企業さんにご理解いただき、材料の物品協賛や、少し足りない分の協賛金をいただきながら運営していた。今後も、地域の皆さんにご理解をいただきながら、細く長く夏祭りを続けていけるような進め方を考えていきたい。また、今回までは和紙を使った七夕飾りを作成するが、3 年目からは和紙を使わずあまり材料費のかからない材料を検討している、
- 意見**協賛金をいただいているのであれば、収支決算書に記載するなど、見えるかたちにしたほうが次年度に繋がると思う。
- 意見**協力者として高齢者施設の名前があるが、なかなか外に出られない方がそういった活動を見るのは楽しみになると思う。地域包括支援センターでも、お声がけいただければどんな施設があるか、どんな協力が得られるか等教えることが出来ると思うので、是非お声がけいただきたい。

- Q 4月中旬に事業が始まるとのことだが、そのあとに歌詞を集めたり七夕飾りをつくったりしなければならぬと思うが、スケジュール的に問題ないのか。
- A 七夕飾りを作る場を利用しながら、みなさんと会話をしたり、アンケート等で歌詞を収集したいと考えている。
- Q あらいフェローズのサポーターを増やすことが目標としてあったと思うが、地域の企業から協賛もいただいている状況で、そういった企業や団体を取り込んでいく予定でいるのか。
- A 地域に住んでいる方や関わりがある方が主体になっていけるまちづくりを目指しているので、企業さんからのサポートも必要にはなってくるが、まずは一緒に動くメンバーを募っていきたいと思っている。
- Q 皆さんの意欲を引き出して、おまつりの中でショーをすればより見ごたえが出来ると思うが、ささやかなものでもやることはお考えか。
- A 今のところ考えていなかったが、面白い取り組みだと思う。また、そこで企業さんとの繋がりも出来るかもしれないので、是非取り入れさせていただきたい。

【プレゼン概要】

連坊の魅力を発信し、来訪者を増やしていくことを目的に、連坊の歴史資産を活用した街あるきや座学、動画コンテンツの制作を行う。また、今年度より、オフ会を開催し、運営にも関わってもらえるようなコアメンバーの育成を目指す。

【質疑概要】

- Q オフ会については、今年度から開始されるとのことで、とても注力されることが伝わってきた。オフ会の参加者層や運営の具体的なイメージが現時点であれば教えていただきたい。
- A 今までまち歩きに参加してくれた方や普段そういったことに興味を持っている方を勧誘したいと思っている。
- Q 街あるきガイドへの謝礼は、来年度以降どのようにねん出する予定か。また、ガイドの育成をどのように考えているか。
- A 今までは広く参加者を募りたいとの思いから、参加料を 500 円にしていたが、今年は助成終了後のことを考えて秋以降の回は 1,000 円にしてみた。また、街あるきのガイドについては、街あるきの参加者に元六七郷堀サポーターズの方がいたので、次年度はその方にガイドをお願いする予定である。とはいえ、なかなか参加者の中でガイドをやってくれる人は、これまでやってきてやっと 1 名でてきたところで、難しいところである。
- Q 動画講習会を開催して、連坊に対して関心が向くきっかけになっているのか、街あるきの参加者の増加に効果が出ているのか、教えていただきたい。
- A 実際にやってみて、動画にもともと関心がある人と連坊に関心がある人は必ずしもリンクしていないということに気づいた。そのため、もう少し工夫する必要があると思っている。例えば、連坊のおもしろいところを撮影する撮影会を開催してから、街あるきをするような企画を検討中である。

【プレゼン概要】

様々な知識や技術、エピソードを持つ人を屋台に招き、「屋台トーク」としてお話や作品、あるいは技術を紹介して語ってもらうとともに、その様子を収録・アーカイブをすることで、将来的に使える記録として残していく。また、屋台トーク等を展開する上で必要になる拡張部分を、ワークショップ形式で追加修繕・製作する。

【質疑概要】

Q 屋台の移動性を活用して、沿岸部だけでなく街中でイベントに参加するといったような考えはあるか。

A 是非やりたいと思っている。五橋ベースの役割が、街中の人に紹介するということだと思っているので、活用していきたい。

意見 実際に屋台を見る機会がないので、屋台トークをやることでより多くの人に知っていただけるし、沿岸部への集客にも繋がる可能性もある。沿岸部はなかなか車がないと行きづらい場所なので、街中でのイベントが入口になるといいのではないかと。

Q 屋台の魅力を考えたときに、屋台自体の魅力、そしてそこに人が集まるという魅力もあると思うが、やはり屋台での飲み食いは魅力の一つだと思っている。お弁当を販売することは聞いているが、許可を取りながら、荒浜の食材を使ったものを提供することも考えているか。

A 食べ物重要だと思っている。出来る限り提供したいと思っている。ただ、手続き上の課題がたくさんある状況。屋台は飲食営業の許可は取れないので、どこかで調理したものを持ってきて食べてもらうようになる。現状の出来る範囲で、都度調べながら、対応していきたい。

Q イベントの参加者のターゲット層はどのあたりなのか。また、広報の方法はどのように考えているか。

A 子連れの親子を対象にしているイベントと、アウトドア好きな方を対象にしているイベントと、音楽鑑賞などの文化芸術が好きな方を対象にしているイベントを今まで開催している。それぞれのイベントのターゲット層に合わせたチラシの置く場所の検討や、広報の仕方を考えている。

Q 映像での発信力が重要になってくると思うが、予算書を見ると映像編集費が 40,000 円となっている。発信をしていく際の技術力が心配。技術を持った方がサポートに入ってくれているのか。

A スタッフの中にプロがいて、こういった機材でこういったものを使ったらどうかという検証をしている。ただ、当日の運営等までは手が回らないので、そこはまた別の協力関係のあるプロの方をお願いしている。色々関わってくださっている方なので、かなり少ない金額で、出来る範囲で受けてくれている。技術に関しては自信がある。

Q 参加費 500 円×10 人に対して食材費が 10,000 円になっていたり、参加費 1,000 円×30 人に対して昼食代が 30,000 円になっていたり、参加費と食材費の比率が気になる。

A 基本的にそこで収益を上げるような事業計画にはなっておらず、その金額で賄える食事をお出しする。鍋物を小さな器によそって提供するなどを考えている。今までにもこういった予算で提供した実績があるので、これぐらいの金額で 30 人分作れるというのはわ

かっている。また、お弁当については今までにもお願いしているお弁当屋さんがあり、金額をコントロールできるのでこちらも問題ない。

Q 唯一残っている屋台の「もの」としての可能性に非常に期待している。例えば、映像を発信するだけではなくて、場所としての活用をもうちょっと考えていただければ、広域性が生まれると思う。関心がある人だけが来るとなると、サークルのような印象が付いてしまうと思うが、そのあたりどのようにお考えか。

A 2年目は、人の魅力をトークイベントで引き出しながら、配信のスキルを磨いていくことに注力していきたいと思っている。屋台自体を活用したイベントも是非やりたいと考えており、3年目に向けての課題探りとして、2回程度の屋台活用イベントの開催を考えている。今回は30人くらいの規模でのイベント開催を予定しているが、3年目はより多くの方に来ていただけるようなイベントを開催したいと思っている。

【プレゼン概要】

三本塚住民を対象にこれまでの暮らしや三本塚での思い出を取材し、その語られた言葉をそのまま書き記す「聞き書き」という手法で、三本塚にしかない生活誌を作成する。本プロジェクトを実行することで、「三本塚らしさ」の次世代への継承や地域づくりにおける主体性の形成、集まる場の創出などの効果が期待できる。

【質疑概要】

- Q 住民の方は語ることに終始しているようだが、住民の中で聞き書きを出来る人を探することは可能か。
- A 聞き書きについて、「暮らしの採集室」に丸投げしないで、機会があるときには色々な形で同席するなどして、情報交換をしながら進めていきたい。
- Q 予算書について、毎回謝礼としてお話しする方に 10,000 円を支払われるのか。また、10,000 円という金額の根拠を教えてください。
- A 「暮らしの採集室」へ支払う。2 時間ヒアリングして、メイン担当（聞き取りは 2 名で行う）に 1 回 10,000 円お支払いする。内訳は、交通費 2,000 円、2 時間の聞き取りを書き出すのに 8 時間程かかるので、1 時間 1,000 円として 8,000 円、計 10,000 円。
- Q お茶っ子は役員の方と「暮らしの採集室」だけではなくて、住民の方が幅広く自由に参加するという理解でよろしいか。
- A その理解で問題ない。農業団体の実行組合や老人クラブからも、協力したいとのお返事をいただいている。先日開催した町内会の定例総会でも、皆さんの協力を呼び掛けたところ、皆さんからは是非協力したいとのお話しをいただいた。
- Q お便りの発行の制作費 10,000 円はどなたにお支払いする予定か。
- A 「暮らしの採集室」にお支払いする。
- Q 聞き取りについて、個人史的な内容を取りまとめるのか、それとも三本塚の農業や食事などテーマをもとに聞き取りをするのか。
- A テーマをもとに聞き取りをする予定。
- Q 最近は紙媒体を見る人が少なくなっている。画像や音声のほうが、色々な人に見ていただくチャンスがあると思うが、そのようなことは検討していないか。
- A 画像や音声でも残すつもりでいる。先日、老人クラブのお茶会で、昔の三本塚町内会の応援歌を皆さんで歌って録音した。また、歌詞は額縁に入れて飾っている。そのような、誰が見てもわかるような形でも残していきたいと思っている。
- Q 生活誌のイメージを、ページ数や大きさ、コンテンツなど、決まっている範囲でよいので具体的に教えてください。
- A ページ数は特に決めていないが、多いとそのぶん費用もかかるので、あまり多くならないように考えている。小冊子のようなイメージを持っている。
- Q 「暮らしの採集室」は、取り組みに関してどのくらいの意欲を持っているのか。
- A 「暮らしの採集室」とは今までに 3 回ほど打ち合わせをしており、三本塚の取り組みについてもご理解いただいている。

Q 生活史が完成後、何部作成し、どこに配るのか、もしくは販売するのか、見通しがあれば教えていただきたい。

A 町内会の全住民の他、市民センターや関係各所に配る予定でいる。正確な部数は未定。